

今週（8月7日から8月10日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、前週と同様にビッドサイドの資金調達ニーズが限定的となるなか、オファーサイドでは、大手行を含む幅広い業態から資金運用ニーズが見られたことで、レートは低位での推移となった。

無担保コールO/N物は、週を通して▲0.087～▲0.07%近辺の出会いが中心となった。3連休前で4日積みの取引となった10日(木)も出会いの水準に大きな変化は見られなかったものの、オファーサイドの資金運用ニーズは一服した様子であった。

ターム物は、ショートターム物で▲0.07%近辺の水準で引き合いが見られたものの、オファー、ビッドともにニーズが弱く、総じて閑散なマーケットとなった。

日銀当座預金残高は535兆円台からスタートし、9日(水)に30年債の発行でやや減少したものの、10日(木)に6M物の償還や国債買入オペを受けて、増加しての着地となった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.16～▲0.09%のレンジでの取引となった。足元GCは輪番オペの実施も意識され、レートが一時低下したものの、短国の発行要因などから10日(木)には再び上昇に転じた。

SCは、カレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、3M物が在庫の減少を背景にしっかりと推移し、6M物は9日(水)の入札結果を受けてレート水準が上昇した。

8日(火)に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でおfferされ、按分利回較差+0.010%、平均利回較差+0.012%と、やや弱めの結果となった。

9日(水)に実施された6M物入札は、按分落札利回り▲0.1423%、平均落札利回り▲0.1618%と、やや強めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.159%での出会いが見られるなど、無難に推移した。10日(木)に実施された3M物入札は、按分落札利回り▲0.1042%、平均落札利回り▲0.1110%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.115%で出会いが見られるなど堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は、鉱業、電気機器、医薬品、石油など複数の業態が大型発行を実施した。全体としては週間発行総額7,000億円程度、週間償還総額6,000億円程度と発行超のマーケットとなった。市場残高は週を通して概ね28兆円台前半で推移した。

発行レートは、日銀適格担保銘柄では概ね0%前後での出会いが中心であったが、ロングターム物や残高が膨らんだ銘柄については一部の投資家に慎重な姿勢が見られ、レート水準にばらつきが見られた。

9日にはCP等買入オペが4,000億円を実施された。結果は按分レート▲0.002%、平均レート+0.006%と 前回(按分0.000%、平均+0.005%)比で按分は低下、平均は上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
8/7 (月)	32,254.56	0.620	141.65	△ 0.075	△ 0.103	5,359,500
8/8 (火)	32,377.29	0.605	143.02	△ 0.073	△ 0.130	5,360,500
8/9 (水)	32,204.33	0.565	143.33	△ 0.074	△ 0.147	5,351,500
8/10 (木)	32,473.65	0.585	143.83	△ 0.072	△ 0.101	5,383,600
8/11 (金)						

来週（8月14日から8月18日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
8/14 (月)					
8/15 (火)	4-6月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50)	5Y 25,000億円 8/16発行			7月の米小売売上高 6月の米企業在庫
8/16 (水)		国有林野借入 961億円 8/25借入			7月の米住宅着工件数 7月の米鉱工業生産・設備稼働率 4-6月期のユーロ圏GDP2次速報 7月の英消費者物価指数
8/17 (木)	6月の機械受注統計(内閣府 8:50) 7月の貿易統計(財務省 8:50) 6月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB1Y 35,000億円 8/21発行	20Y 12,000億円 8/18発行		
8/18 (金)	7月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 6月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB3M 58,000億円 8/21発行			7月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/14 (月)	400	200	600	国債補完	29,100		29,100	29,700	TB3M発行▲58,000償還61,700
8/15 (火)	1,000	68,000	69,000	CP買入		4,000	4,000	73,000	源泉所得税揚げ、年金定時払い 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲2,000 個人向け3・5Y償還800 交付税借入▲12,000期日12,000
8/16 (水)	500	▲27,000	▲26,500	全店共通	▲5,000		▲5,000	▲31,500	5Y発行▲25,000
8/17 (木)	▲500	▲4,000	▲4,500				0	▲4,500	
8/18 (金)	▲300	▲13,000	▲13,300				0	▲13,300	20Y発行▲12,000
週 間 合 計	1,100	24,200	25,300	—	24,100	4,000	28,100	53,400	

8/14は日銀予想、8/15以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期の変わり目となり、週前半は着地に向けた調達ニーズも出てくることで、レートは緩やかに上昇するとみられる。週後半は新積み期の取引となり、調達サイドには慎重な姿勢が見込まれることから、レートは低位での推移が予想される。債券レボ GC T/N物は、▲0.15～▲0.080%のレンジでの推移が予想される。短国市場は、17日に1Y物、18日に3M物の入札実施が予定されている。また、15日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、夏季休業に入る事業法人が多く、閑散なマーケットが見込まれる。期末越えのレート水準や、市場残高の動向が注目される。

主要なイベントは、国内では15日に4-6月期のGDP 1次速報、17日に6月の機械受注統計、18日に7月の全国消費者物価指数、海外では、15日に7月の米小売売上高、16日に4-6月期のユーロ圏GDP2次速報、18日に7月のユーロ圏消費者物価指数改定値などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入